

令和7年度 高山市立宮中学校 経営構想



【学校の教育目標】

磨く

～自主 友愛 一之宮愛～

【宮小・中で育てたい資質能力】

対話を工夫しながら、
自分の考えを深める力

◎高山市立学校教育の方針と重点

【方針】未来社会を創造する資質・能力を身に付け、学び続ける子の育成

【授業・活動のキーワード】主体的・対話的で深い学び ～対話から議論へ～

一人ひとりの「あこがれ」「やりがい」「できること」を踏まえ

地域の個性

○コミュニティスクール

「地域と共にある学校」「保小中の連携の強さ」

○豊富な地域の財産（自然・文化・産業）

「位山、臥龍桜、水無神社、巨石群、宮笠、
モンデウススキー場、みややん 等」

本校の生徒の「強み・弱み」

強み…「地域で育まれた素直さ・誠実さ、明るさ」
「郷土愛の強さ」「やさしさ」

弱み…「学力の個人差」「レジリエンスの低さ」
※発展途上：「発想力の豊かさ」

にじ色の生徒の「強み・弱み」

強み…「にじ色で学ぶのだ」という覚悟
個性の豊かさ

弱み…「不安」「迷い」「自信がもてない」

【資質能力を高めるために、生徒・教職員が大切にする言葉】

「つなぐ」

【R7年度の重点課題】

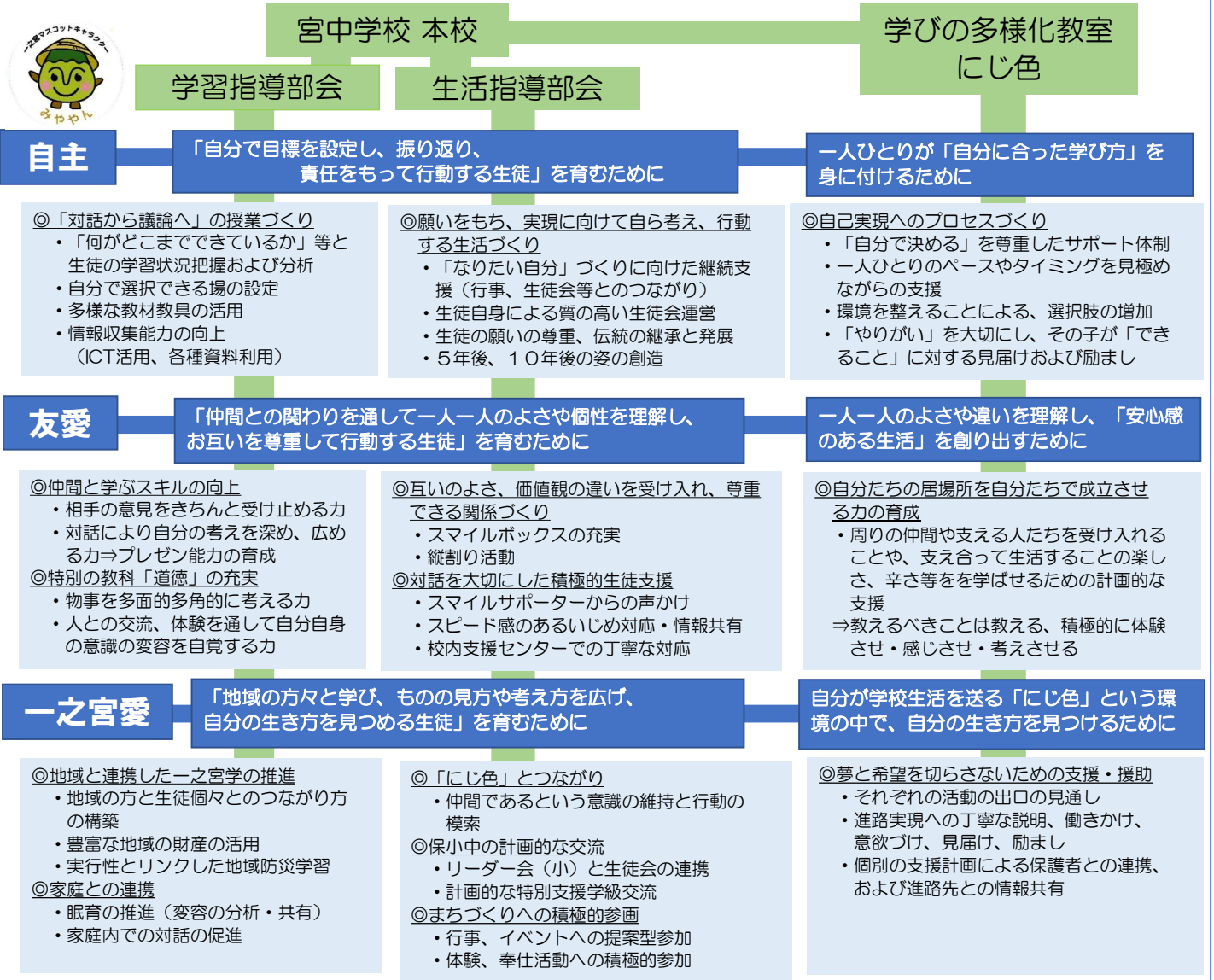
□「キャリア教育」の展開

- ・「対話から議論へ」の“授業づくり”
- ・豊富な地域の財産を生かした郷土教育の推進

□「本校」と「にじ色」の融合(教職員間・生徒間)

- ・子どもたち一人一人の“居場所づくり”
- ・縦割り活動を生かした“人間関係力づくり”

【指導の具体】



「チーム宮中」の指導の構え

- ・本校67人、にじ色15人。全校生徒82人を全職員で見守り、育てる。
- ・とにかく“やってみる”。ダメなら“やめる”。
- ・自分で、自分たちで「求めさせる」「考えさせる」「こたえを出させる」という営みに徹する。
- ・子どもだからこそ、“子ども扱いしすぎない”

支え合い、磨き合う「チーム宮中」

- ・本校とにじ色の日常的な連携
- ・声を掛け合う集団、そして鍛え合う集団
- ・教頭を核とした「働き方改革」と「日常的なコンプライアンス研修」
- ・部活動地域展開にかかる各機関との連絡、確認